

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜本巣特別支援学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年2月27日(火) 13:30~15:30
- 3 開催場所 岐阜本巣特別支援学校 北館3階会議室
- 4 参加者
- | | | | | |
|-------|--------|-------------------------|-------|-------|
| 会 長 | 山田 孝治 | 北方町商工会副会長 | | |
| 副 会 長 | 森 久子 | 本巣市主任児童委員 | | |
| 委 員 | 神山 弘彦 | 西秋沢自治会長 | | |
| | 松本 和久 | 岐阜聖徳学園大学教授 | | |
| | 牛丸 真児 | 瑞穂市社会福祉協議会 | | |
| | | 福祉総合相談センター主任相談支援専門員(欠席) | | |
| | 橋本 民子 | 本巣市障害者基幹相談支援センター「えがお」 | | |
| | | 主任相談支援員(欠席) | | |
| | 板倉 寿明 | 愛知淑徳大学講師 | | |
| | 清水 美典 | 希望が丘こども医療福祉センター相談支援専門員 | | |
| | | (欠席) | | |
| | 藤田 佳正 | 本校PTA会長 | | |
| | 名知 由利香 | 本校PTA副会長 | | |
| 学 校 側 | 神戸 茂 | 校長 | 新沢 幸美 | 事務部長 |
| | 牧村 貴志 | 教頭 | 寺井 聡 | 教頭 |
| | 栞原 正美 | 小学部主事 | 原 和代 | 中学部主事 |
| | 瀬下 裕基 | 高等部主事 | 永井 久江 | 教務主任 |

5 会議の概要(協議事項)

(1) 各部・各分掌の取組みについて

- ・児童生徒の日頃の様子(授業や行事等)を各部ごとに写真を提示しながら紹介した。
- ・各分掌の自己評価(成果及び課題等)について報告した。

意見1: 児童生徒が笑顔で活動できている。成長している姿に安心感がもてる。また、今後の教育活動にも期待したい。(複数)

意見2: 体験することで、本物がもつ価値を学ぶことができる。アクティブラーニングの視点から、学びのある体験とは何か考えるとよい。また、ラーニングピラミッドの観点から言えば、人に教えることで学びが得られることが大切である。読書の取組みとしてビブリオバトルなどに取り組んでもよいのではないかと。保護者や地域の方から本を紹介していただくこともよい。

意見3: 令和6年度全国高等学校総合文化祭に向けての取組みは、特別支援学校の生徒と高等学校の生徒と一緒に活動できるよい機会である。本校生徒も発表の機会があるように、特別支援学校の生徒にとっても、生活年齢に合った活動を行えることが大切である。

意見 4 : コロナ渦を経て、通常に戻りつつあるが、これまでのノウハウが残っていない。来年度以降、過去にとらわれすぎず、工夫してもう一度作り上げていけばよい。

意見 5 : 開かれた学校として、地域へどう発信していくかが大切。例えば、教員が作成した教材教具を展示する会を保護者にも見てもらうとよい。

意見 6 : 今年は職業教育としての喫茶の再開やゆめフェスタの開催があり、学校が少し身近に感じられた。今後、学校と地元のつなぎ役として協力したい。

意見 7 : 保護者や地域への発信を考えると、ホームページの改善が必要ではないか。
⇒課題は職員間で共有しており、分かりやすいホームページとなるよう検討する。

意見 8 : 知人の話から高等部の現場実習について関心がある。どのような取組みをされているのか。
⇒実習前に、担任、保護者、本人と実習先と打ち合わせを行い、本人の特性や配慮してほしいことなどを実習先に伝え、実習中も教師が巡回指導を行う体制を整えている。

意見 9 : 重点目標や成果・課題について、昨年度とあまり変わっていない分掌がある。「来年に向けての改善方策案」に基づく計画案を作成し、それを評価していくようにするとよい。また、自己評価における「成果・課題」について、分掌間ですり合わせることで、分掌間の連携が図られるとよい。

意見 10 : 分掌の自己評価に B という評価が多いが、A という評価でもよいのではないかと。(複数)

《渉外部の取組みに関する意見》

・小中学校の P T A 活動と比較すると、本校においては、保護者が行う仕事を先生方によくやってもらっている。保護者、学校、地域が連携してよい学校になるとよい。

《防災安全部の取組みに関する意見》

・防災訓練のおかげで、令和 6 年能登半島地震の時には、子供が机の下にもぐり、対応が身に付いていると考える。

・令和 6 年能登半島地震でいえば、特別支援学校の児童生徒たちがどのように過ごしていたのか、どのように避難していたのか、教訓となることがある。そうした教訓から本校で検討していくことが大切である。

《研修部の取組みに関する意見》

・ P T、O T、S T と連携として、自立活動の展開においてどのようにかかわっていたかなども考えていくとよい。

(2) 作業製品の検討について

・新規の作業製品や価格変更、品名変更等について提案した。

意見 1 : 新規の作業製品について異議なし。価格変更についても、物価上昇を考え、適正価格。品名変更については、生産物を管理するうえで適正な提案である。

6 まとめ

・第 3 回学校運営協議会では、出席した 7 名の委員より、各部・分掌の取組みについて、次年度の改善の手立てとなる意見を得た。また、作業製品については、提案のとおり承認を得た。

・教育活動における学びが児童生徒の生活に生きるよう、委員からの意見を踏まえ、分掌間で共有できる課題を整理し、連携を図る。